

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

めん羊新規人工授精法の開発研究

動物生殖学研究室 教授 永野 昌志

めん羊には1,000品種以上が存在し、様々な環境に適應できることから世界各地で飼育され、経済的あるいは社会的に重要な役割を担っています。その遺伝的多様性を維持しつつ、その能力を向上させるための改良には人工繁殖技術の応用が不可欠ですが、FSCだよりVOLUMEで御紹介したとおり、凍結精液を用いた人工授精(AI)には腹腔鏡を用いて腹部に穴を開け、外科的に直接子宮内に精液を注入する方法が用いられています。しかし、この方法は特殊な機械が必要であるため、牛AIのように世界中

に普及しているとは言えません。また、動物への負担も非常に大きいものとなります。そこで、当研究室ではFSCで飼養されているマンクス・ロフタン種とサフォーク種を用いて動物にやさしく、誰でも実施可能となる簡便な経膣AI法の開発に取り組んでいます。新しいAI法で今までにマンクス・ロフタン4頭とサフォーク1頭が妊娠しました。この方法での妊娠率を向上させるための研究は今後も続けるとともに来年度からは家畜改良センター十勝牧場との共同研究も開始予定です。



右 受胎した胎児のエコー写真
左 経膣AI法実施の様子

下 経膣AI法実施中のマンクス・ロフタン種

今号のどうぶつ紹介



羊 マンクス・ロフタン種
オーガ

上の記事で羊の人工授精を紹介しましたが、こちらのオーガ君は3回目の人工授精で誕生した3頭のうちの1頭です。マンクス・ロフタン種は茶色の被毛が特徴ですが、オーガ君は真っ白で生まれました。今はだいぶ茶色なくなってきましたが、他の個体と比べるとまだまだ薄く、シルバーがかかった色がとても珍しく、美しいです。

次号の予定 と 編集後記

あけましておめでとうございます。丑年にはなにも牛イベントができなかったので、未年には何かしたいと思っています。

今号は永野先生に寄稿していただきました。ご協力ありがとうございました。人工授精で生まれたマンクス・ロフタン種の子羊は他の牧場へ譲渡され、日本のマンクス・ロフタン種の保存・維持に貢献しています。

(編集：岩城)